

説教余滴 2018年8月12日、ギリシャの国花オリーブ、

あのホメロスが「液体の黄金」と称えたと言うオリーブは、ギリシャの国花です。

古代ギリシャ人にとってオリーブの木は神聖な木でした。リラクゼーションのために枝を敷きつめて横になったり座ったりしたとの事、また儀礼の一種として平和や許しを求める人達が身に付けた、とのことです。

地中海性気候の乾いた土地で、紀元前3,000年からオリーブの栽培がおこなわれていました。さしたる手入れもせずに毎年実を付けるオリーブの木は、暮らしの中で、とても重要な地位を占めてきました。実を食べ、油を絞ってさまざまな使われ方をされ、「黄金の液体」や「最強の薬」とも言われました。

「世に数ある食物の中でも「平和の象徴」と呼ばれるオリーブをお菓子に使う意味は決して小さくない」と願って、TERAKOYA オリーブサンドが創られました。心穏やかな「平和」は人が求める最も大切な価値です。贈る人から贈られる人へ、平和と幸せを願うメッセージとして、幸福をもたらす贈り物となるように、との祈り心があります。

ノアの箱舟の物語のなかで、新しい世界の訪れをつげる姿から、ハトとオリーブは平和の象徴となってきました。国際平和擁護会議のためにパブロ・ピカソによってつくられたポスターで、オリーブをくわえたハトは、一気に広まりをみせたようです。

「平和」というと戦争の反対語としての意味だけを考えがちですが、聖書のいう平和の意味は、全ての人が精神的にも、社会的に満たされている状態、更に言うなら神によって満たされている状態を指し示しています。たとえ争いがなくても、誰かが悲しみ、苦しみ、絶望のなかにいることは平和といえません。疎外されている、傷付けられている、そんな人がいない、全ての人が幸福であるという完全な平和を求めるイエス・キリストが教えたのは「神を愛し、隣人を自分のように愛しなさい」という言葉です。